

自治 温故創新

考える
思いやる
やりぬく

まごころ

学校便り 3月号

令和5年3月22日
西東京市立田無第三中学校

温故創新・創発・ミニ運動会

校長 東山 信彦



去る月の三月も終盤です。三年生も先週末に涙と笑顔の中、卒業していきました。令和四年度もあとわずかとなりました。思い起こせば、今年度四月の始業式。私は、田無第三中学校開校六〇周年にちなみ、その伝統を踏まえ「温故創新」というスローガンを生徒に披露しました。前年度同様にコロナ禍は収束が見えない中でしたが、そのスローガンには、「今までやれたことができない」と嘆いているより、今までの伝統に学びつつも、新しいことに挑戦し、新たな伝統を創ってほしいという思いを込めました。

た。

また、私は常々、「過去の出来事は、今ある自分の解説にはなるが、解決にはならない。今ある自分を変えるのは今からの自分だ。」と話してきました。三中生の姿を見るにつけ、この「未来志向」を「創造」に結び付けることが、これからの三中生の行動指標としてふさわしいと思い至ったのです。

少し前に、「五〇年後に、今の職業の大半がAIにとってかわられているだろう。AIの時代には、基礎的な知識・技能はAIが担い、人間の出る幕はなくなる。だから、AIが苦手とする、新しいモノやコトを創造することに、人間は力を入れるべきだ。」という主張が声高にされていました。このAIに知識は任せて、新しいことを生み出す学びに力を注ぐことは、一見正しいようで、実に難易度の高い主張に思えてなりません。

新しい発見や発明のほとんどは、今までの知識の組み合わせで生まれてきていることは、広く知られていることです。また、主体的な対話を行っても、メンバーの知識に差があると、一人の判断を超えられないことも、知られていることです。だから、基礎的な知識や技能を学ぶことは、創発の土台として欠くことはできません。次への段階へ進むためには、地道に時をかけて、メンバーで対話を重ねながら、失敗と成功を積み重ねていくことも、欠かすことができません。その土台と、試行錯誤の繰り返しの中で、新しい組み合わせが生まれ、新しい発見や発明・工夫が生まれてきます。

また、AIがもたらすものは、単なる情報です。それを、「本当か?」「なぜか?」「いつでもそう言えるのか?」「こうすればもっと良いのでは?」と問い続け、繰り返し吟味していくことで、それを生きた知識にすることが我々にはできます。

その意味で、本校では、一昨年から「集団思考」を取り入れた、主体的に話し合う授業に取り組んでいます。その中で「もやしちゃんとほ・な・い・こう」をキャッチコピーに、ほ「本当か?」な「なぜか?」い「いつも?」等と問い続けることは、情報を生きた知識にすることに取り組んでいるともいえます。

不確かな情報を基に話し合っても、生まれてくるものはたかが知れています。真の知識を皆がもった中で、主体的な対話こそが、創発を生み出します。教科学習に限らず、教育活動全体を通して、三中に集った仲間の集団の質を高めていくことが、創造を生み出す力を育てることになると思います。



ミニ運動会

生徒会長

今回のミニ運動会を行おうと思ったきっかけは、僕たち生徒会役員のメンバーの多くから「全校生徒で楽しめるイベントをしたい」という意見が出たことでした。ミニ運動会について動き始めたのは去年の12月からで、イベントの内容をどうするか全校生徒に対するアンケートやイベントの原案の作成など、ミニ運動会の構成を決める段階から始めました。冬休み明けには、本格的な話し合いを行い、職員会議で了承を得るための要項作りなどを行いました。なので、4ヶ月弱の時間をミニ運動会開催のために使いました。その間に、老人ホームへの年賀状、側溝清掃などの生徒会活動を行っていました。

ミニ運動会の計画時に最も苦労したことは実施要項作りでした。職員会議に出すたびにご意見をいただき、それを改善する。何度も何度もやり取りを繰り返して、やっと開催の了承が得られたのは学年末テスト1週間前のことでした。先生方に承認してもらえるように、イベントの詳細をより詳しく明確にしたり、時間内に行うための工夫を盛り込んだりしたことで、なんとか承認していただけました。

準備の段階で一番大変だったことは、生徒の誘導でした。全校生徒400人ほどを時間どおりに動かすために、学代やチーム代表者の方々にも手伝ってもらい、「どうすればみんながわかりやすいか」を中心に考えて準備しました。そのためのプリント作成、前日集会や放送での読み合わせ、ライン引きなど、多くのことをしました。その中で、自分たちの見通しの甘さや行動の稚拙さに、大菅先生からお叱りをうけることもありました。毎日遅くまで残っていても時間が足りない、そんな日々でした。

そうやって苦労を重ねた末に迎えた本番では、予定よりもスムーズに進行することができ、大縄の練習時間を伸ばすことができる程、時間に余裕が生まれていました。そして試合をしている生徒のみなさんも、たくさんの笑顔でとても楽しそうに取り組んでいました。多くの方から「楽しかった」の言葉をいただけて、ミニ運動会は成功したと思えました。

今回の取り組みを終えてみての感想は「やってよかった」と「全校生徒を動かすことはとにかく大変」でした。全校生徒400人に対して生徒会役員は9人と、1人あたり44人程を見なくてはいけなく、代表者の方々が出たとしても膨大な人数差です。本番では成功こそしましたが、水撒きや綱の調整など、先生方に頼っていたことはまだまだありました。これまで何不自由なくやってきた学校行事のことを思い起こすと、本当に先生方の凄さを痛感します。

成功で終えたミニ運動会でしたが、まだまだ僕たち生徒会役員には課題が残ります。それでも、みんなが笑顔で盛り上がることができ、一番の目的であった「全校生徒で楽しめるイベント」を達成することができました。役員一同、本当にやってよかったと感じています。それに、これからの行事運営などの役員活動に対しても自信が付きました。「自分たちでできることは自分たちで」。これを目標として、今後もより良い新しい学校にするため、残している課題に向き合いながら、日々精進していきます。今回ご協力いただいた学代、チーム代表、生徒のみなさん、先生方、本当にありがとうございました。

